

「地域まるごと博物館」の動画制作を通じた 地域調査教育プログラム開発

浅野敏久(総科)・匹田篤(総科)・熊原博康(教育)・黒島健介(総合博物館)

広島大学総合博物館の地域まるごと博物館活動

広島大学総合博物館には総合科学部の教員が複数関わっており、博物館を教育・研究の場として活用している。本研究はその一環であり、総合科学推進プロジェクトの予算に加え、国土地理協会 2022 年度学術研究助成金も活用した。

総合博物館は開館以来、キャンパス全体を博物館とみなすエコミュージアム活動を進めており、最近では活動範囲を広げて、地域まるごと博物館の活動を行っている。

地域まるごと博物館では、次のようなことを行ってきた。

- オオサンショウウオなどの保護・教育活動
- キャンパス外での企画展・特別展等の開催
- 龍王山の里山保全や酒蔵通りの教育利用
- 埋蔵文化財の保全・普及活動
- エコミュージアム・ツアーの開発・実施
- 地域を紹介する動画コンテンツの制作・発信 など

これらのうち、「地域を紹介する動画コンテンツの制作・発信」では、総合科学部の講義・演習でも積極的に活用するほか、動画制作を授業に取り込むことも試みている。

今回の研究目的

今回の研究目的は次の2点であった。

- 1) 地域調査を行いつつ動画コンテンツをつくること。成果物は、今後の研究・教育に活用する。
- 2) 地域調査の実習として動画制作を行うプログラムを開発することを想定し、その可能性と限界を探る。動画制作を学生の地域調査の実習ととらえ、地域の特徴を掘り下げて紹介する動画を制作することが、いかに学生の学びにつながるのかを検討し、その課題や可能性を明らかにする。

調査方法

- ① 演習受講生や有志の学生を集めて実際に実習として動画制作を行う。3つのグループで3つ(実際には6つ)の動画を制作する。
- ② プロジェクトを通じて運用に関する情報を収集する。加えて動画制作に取り組む学生の様子を観察する。
- ③ 活動に参加した学生としなかった学生を対象とする地域調査実習についてのアンケート調査を行う。

製作した動画

今回制作した動画が、次の通りである。総合博物館の動画は他にも作られているが、そのコンテンツの1つとして本学のデジタルミュージアムから発信している。

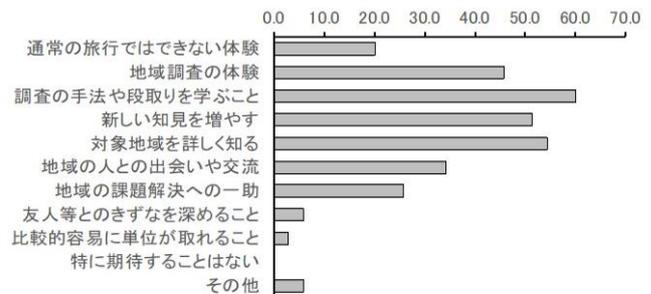
- 博物館に出入りしている学生による「安芸津ドライブ旅」
- 教育学部の学生・院生による「やってみよう地域調査:東

広島市高屋町小谷池周辺の土石流と水害碑」

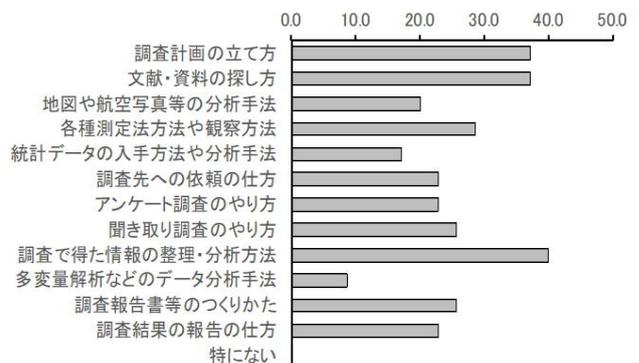
- 「社会情報メディア論」の受講生による、「[広大生が歩いてみた一本の道から発展した西条下見](#)」「[菖蒲の前伝説 平安時代と令和西条のつながり](#)」「[広大生の西条さんぽ](#)」「[学園都市の今だけじゃない！西条の過去と未来](#)」
- これらは、「[広島大学総合博物館, YouTube](#)」で検索するか、[広島大学 HP⇒図書館・博物館等⇒広島大学デジタルミュージアム⇒YouTube⇒動画](#) で視聴できる。

Q:地域調査系の演習・実習に何を期待しますか

アンケート等の結果(抜粋)と知見



Q:地域調査系の演習で身につけたいことはなんですか



●得られた知見

学生は作業を楽しみ、熱心に参加していた。実習の目標が明確になり、実習に参加するモチベーションが上がる、調査結果を地域に還元できることへの安堵感をえられる、参加したことで、より段階の進んだ技術やノウハウへのニーズを高める、などの効果がみられた。

学生は実習に技能的な学びを求めている。かつ実習の参加回数を重ねるごとに専門的なことへのニーズが高まる。

課題として、授業として行う実習では単元に割ける時間が限られており、動画制作のプロセスを組み込むと他のことをする時間を圧縮してしまう。また、費用の負担が大きいこともあげられる。予算確保の方策を探る必要がある。